

= 告辞 =

入学式 告辞

学長 鮎田 耕一

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

北見工業大学の教職員、学生を代表致しまして、私たちの大学の一員となった皆さんの入学を心から歓迎します。

また、これまで皆さんを育て、温かく見守って来られたご両親をはじめご家族の皆様にもお祝いを申し上げます。

本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました大学後援会会長の永田様、学生後援会会長の田中様、並びに多くの父母の方にご出席いただき、オホーツクブルーの青空の下で入学式を挙行できますことをうれしく思います。

北見工業大学は、来年平成 22 年に創立 50 周年を迎えます。

卒業生も 12,000 人を超える規模になりました。

日本の最も北にある国立大学でありながら、今日入学された皆さんもそうでありますように、過半数の学生は本州の出身で、卒業生も全国

に展開し幅広い分野で活躍し、高い評価を得ています。

皆さんが住まわれることになったこの北見市は、平成 18 年の春に隣りあう3つの町と合併し、人口 13 万人の新しい北見市としてスタート致しました。

面積は北海道で最も広く、全国でも4番目です。

北見市の周辺には4つの国立公園があります。西に「大雪山国立公園」、南に「阿寒国立公園」と「釧路湿原国立公園」、東に世界自然遺産に登録され有名になった「知床国立公園」です。

皆さんはこのような豊かな自然環境のなかで、これから希望にあふれた大学生生活を送ることになります。

さて、今日は二つのことを皆さんに話したいと思います。

一つは、入学した皆さんに対する北見工業大学のサポート体制についてです。



もう一つは、大学で学ぶ意欲についてです。

まずサポート体制についてですが、大学に入学して初めて家族から離れて一人で生活を始める皆さんのなかには北見での生活に不安を感じている人も少なくないと思います。何か不安なこと、わからないことがあったら皆さんの先輩たちが「ピア・サポーター」として相談に乗ってくれます。

先生や職員で構成されています「学生よろず相談室」もあります。相談員がいる時間や場所が決まっていますので、そこで相談してください。

「クラス担任や個別担任」の先生にも遠慮なく尋ねてください。先生方が部屋にいる時間帯をオフィスアワーと呼んで掲示してあります。

これらの方々に相談することによって、安心して大学生生活を送れるでしょう。

そしてこのようなサポート体制に加えて、友達同士の率直な会話の中で様々な悩みの解決の糸口が見つかることもあるでしょう。ぜひ信頼の置ける友人を作ってください。

生活のこと、勉強のこと、人間関係のこと、何であれ一人で悩まないで誰かに相談をすることが大事です。

本日は大学院へ進学する皆さんの入学式でもあります。

大学院生の皆さんのほとんどは本学からの進学ですので、もう北見での生活にはすっかり慣れていることでしょう。

博士前期課程に入学した皆さんは、急速に進歩発展している科学技術の世界で、学士課程で培った基礎学力を基に応用的な専門の勉強をし、専門技術者を目指してください。

博士後期課程に入学した方は、指導を受ける先生の下でその分野で優れた研究業績をあげ、高度専門技術者あるいは研究者として巣立つことを期待しています。

また、今年も中国、韓国、マレーシア、ベトナム、

ナイジェリアなどの各国から23人の留学生が学部や大学院に入学しています。お国を離れて異国での生活は、ことば、習慣などさまざまなことで戸惑うことがあると思います。本学の「国際交流センター」では、そのような皆さんのために親身になって世話をしてくれる教職員がいます。加えて世界十数ヶ国から80人もの先輩留学生が在籍しています。悩み事は遠慮せずに相談して、一日も早く日本、そして本学での生活に慣れることを祈っています。

このように本学では皆さんが安心して勉学や課外活動に集中できるように様々なサポート体制を整えていますので、今日午後からのガイダンスでその内容について詳しい説明を受けてください。

さて、もう一つの話は学ぶ意欲についてです。

皆さん、入学してきた大学というものにどのようなイメージを持っていますか？

アメリカの大統領だったジョン F ケネディは、ある大学の式典の祝辞で、「イギリスの詩人がかつて『地球上で最も美しいのは大学です』と言ったのは、今でも真実です。しかし、詩人が美しいと言ったのは、大学の建物やキャンパスのことではありません。大学が無知を恥じる人々が知ろうと努力をし、真理を知る人が他の人の目を開かせようと努力するところだからです」と述べています。

耳で聞いただけでは少し分かりづらいでしょうから、私なりに解説しますと、大学の最も大きな使命は、教育と研究です。大学では、知り得たことを学生に教えるために教育をする先生、未知のことを解明しようと研究をしている人々、そしてそれらを支えている方々で構成されています。ケネディのことばで重要なことは、教育と研究に努力をしているところが大学であり、それだからこそ美しいと言っているのです。ここでのキーワードは「努力」です。

最近「16歳の教科書—なぜ学び、何を学ぶのか」という本が大人が読んでもおもしろいと話題になっています。この本の冒頭にこんな文章があります。

「16歳のきみに聞きたいことがある。きつきみはいま、自分も高三になったら受験勉強をして、どこかの大学に行くんだろうと思っている。それではきみは、なぜ大学に行くのだろう？」ここでは高校1年生を対象に、大学で学ぶ意味を尋ねています。大学1年生になった皆さんはどうでしょうか？最近、学ぶと言うことに意欲を持たない、努力をしない学生が少なくないと言われています。私も40年間教壇に立ってきた経験からそう感じるときもあります。

皆さんは北見工業大学に入学しました。

北見工業大学の大学生になりました。

北見工業大学は技術系の大学です。

その教育目標は明快です。

北見工業大学では、皆さんが将来技術者として自立できるよう基礎的な教育をしっかりとやって社会に送りだします。

加えて大学院生には、北見工業大学ならではの特色ある研究を指導します。

皆さんもそれに応えるよう意欲を持って勉学に励んでください。

昨年秋のアメリカの大手証券会社の経営破綻に端を発した世界的な同時不況は日本の社会にも影響を及ぼし、入学料を用意できないなどの経済的事情で大学進学を断念する生徒が目立っていると報じられるなか、皆さんは幸いにも大学に入学しました。この幸運をしっかりと受け止め、学ぶという意欲を持って努力してもらいたいと思います。

北見工業大学にも講演に来ていただいたことのあるノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生が「自分のこれからの一生の間に、これをやりたい、やり遂げたい、あるいは理解したい、なんかそういう目標になるタマゴを3つ4つ、いつも大事に持っていなさい」と若者にアドバイスしています。これこそが学ぶという意欲の源でしょう。ぜひ皆さんも、「心に夢のタマゴ」を持ってください。

最後に大学生生活は、おそらく

人生のなかで最も自由な時間がとれる、

人生のなかで最も教養を高められる、

人生のなかで最も信頼の置ける友人に巡り会える、

そんな環境にあります。この恵まれた環境が将来社会人として羽ばたく上での大きな糧となります。

皆さんが北見工業大学の一員として心身ともに健やかな学生生活を過ごされることを心から祈って歓迎の挨拶と致します。

改めて入学おめでとうございます。

